

1 現状・課題・背景

- 商店街は、人口減少や郊外の大型店との競合等により、買い物客の減少や空き店舗の増加等の課題を抱えている。
- 近年、デジタル化の進展やコロナ禍による消費や移動の変化，持続可能な社会に対する意識の高まりなど，商店街を取り巻く環境は大きく変化しており，他県の商店街においては，来街者の利便性の向上や消費機会の拡大，消費単価の向上等を図るため，デジタル技術やデータを活用した取組が進展しつつある。
- このような中，県内商店街において，商店街活性化に向けたデジタル技術の活用に取り組む意欲はあるものの，ノウハウ等の不足によって実際の活用が進まない状況にある。

2 目的

- デジタル化の進展やコロナ禍による消費活動の変化など，商店街を取り巻く環境が大きく変化する中，買物弱者対策などの地域課題の解決や消費者ニーズに対応したサービスを提供する「地域に求められる商店街」づくりに向けて，デジタル技術やデータを活用し，地域課題の解決や商店街の魅力向上に取り組む商店街に対する支援を行う市町村の取組を支援する。
- 空き店舗の増加は，商店街全体の魅力を損ない，集客力の更なる低下，ひいては地域経済への影響等も懸念されることから，商店街の持続性を高めるため，市町村の取組と連携しながら，店舗の有効活用や空き店舗の抑制を図る。

3 事業内容

(1) デジタル技術を活用した商店街活性化支援（市町村への補助） （補助率 1 / 2，上限1,000千円）

(2) 空き店舗解消に向けた事業承継マッチング支援（委託）

（財源：デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ））

A 魅力向上型

商店街の魅力向上に向けて，デジタル技術やデータを活用して販売力，集客力の強化等に一体となって取り組む商店街を支援する市町村の必要な経費に対し補助

【想定例】

- ・商店街アプリの開発・運用
（キャッシュレスとの連携，データ収集・活用によるマーケティング等）
- ・デジタルマーケティングに関する伴走支援
（ECサイト出店，SNS・動画による情報発信など）
等

B 地域課題解決型

デジタル技術やデータを活用して，地域の関係団体等と連携しながら，買物弱者対策や交流人口の拡大，資金の域外流出，子ども・子育て支援，脱炭素社会の実現等の地域課題の解決に向けて取り組む商店街を支援する市町村の必要な経費に対し補助

【想定例】

- ・アプリを活用した買物代行による買物弱者対策
- ・プログラミング学習等のイベント開催による子ども・子育て支援，交流人口の拡大
- ・地域通貨による資金の域外流出防止
- ・デジタルを活用したまちづくりのためのワークショップ開催
等

- 商店街の空き店舗の解消に向け，マッチングサイトを活用して，後継者不足に直面する事業者から，店舗を譲り受けたい出店希望者等への事業承継を促進

○ 主な内容

- ・本県専用ページの開設
- ・市町村や商工団体，金融機関等との連携（事業説明会の開催）
- ・その他事業周知
※ 県外の出店希望者向けに移住サイトやイベントとの連携
等